

## 活動の柱

- 1 青少年の体験活動の促進
- 2 青少年団体の育成と支援
- 3 青少年に望ましい地域づくり
- 4 青少年に関する相談と対応
- 5 青少年に関する調査と情報提供



神奈川県青少年指導員だより

## 第57/58合併号

- 2018年2月 -

発行 神奈川県青少年指導員  
連絡協議会  
発行者 石井一也  
連絡先 045-210-1111(代)  
神奈川県青少年課内  
印刷 株式会社アサヒプリンティング  
044-344-3531



## 青少年指導員制度創設50周年によせて

神奈川県青少年指導員連絡協議会 会長 石井 一也

青少年指導員制度創設50周年の節目にあたり、特集号紙面をお借り致し御挨拶申し上げます。

さて、私たちが県知事や各市町村長、教育長より委嘱を受けております青少年指導員制度は、戦後間もなく始まった「児童愛護班活動」等に端を発し、昭和43年に制度化されました。現在では神奈川県下で約5,300名が各地域で活動しております。

戦後の荒廃期、高度経済成長期、オイルショック、バブル期と、大きなうねりを経て現在に至っておりますが、その間、急激に世情が変化し、少子化、核家族化、地域の繋がり希薄化等が問題視され、さらにはインターネットや携帯電話、SNSの爆発的な普及・発展により青少年を取り巻く社会環境は大きく変化し潜在化しております。

戦後のベビーブーム、いわゆる「団塊の世代」に象徴される競争社会において、合理化や利便性を推し進めるあまり、私たちの「こころ」までがデジタル化に向かってはいないでしょうか。

本質を見間違えないよう、今こそ「デジタルからアナログへ」と舵を切り、将来を担う青少年が夢や希望を抱いて成長していけるよう、「地域で育てよう！青少年。」のスローガンのもと、次のステップに向け連携を深めていただければと思います。

結びになりますが、先人たちが積み重ねて来られた御功績に敬意を表しますと同時に神奈川県青少年保護育成条例にしっかりと青少年指導員の名が刻まれ、その役目が記されていることの重大さと、その位置づけを意気を感じ、各位の更なる活躍を祈念致し挨拶とさせていただきます。



## 青少年指導員制度50周年を迎えて

神奈川県知事 黒岩 祐治

神奈川県の青少年指導員は、昭和43年に制度化され、このたび50周年を迎えます。

あらためて、歴代の会長や理事の方々をはじめ、青少年指導員の皆様の御熱意とたゆまぬ御努力に心から敬意を表します。

この50年の間に、青少年を取り巻く環境は大きく変化しました。かつて、青少年は、家庭や地域で、異年齢の子どもや大人と触れ合い、様々な活動を通して、発達段階に応じ必要な資質を身につけながら成長してきました。しかし、近年、核家族化や少子化、情報化などの社会状況の変化に伴い、家庭や地域社会における人間関係が希薄化し、様々な触れ合いや多様な活動を体験できない青少年が増えています。

そのため、これまで以上に、地域の大人が協力・連携し、意図的・計画的に地域の子どもの様々な活動の機会や場を作るなどして、家庭や地域の教育力を高めていくことが必要となっており、日頃から地域で青少年の健全育成に携わる青少年指導員の皆様の役割は、今後ますます重要になってまいります。

そうした中、県では、「かながわ青少年育成・支援指針」を策定し、「青少年の健やかな成長を支え、自立・参加・共生をはぐくむ社会」の実現をめざし、時代の変化に合わせて課題に応じた様々な青少年施策を進めています。

このたびの50周年を契機に、県としても、青少年指導員の皆様方の活動環境の一層の整備に取り組んでまいりますので、皆様には、引き続き、神奈川の青少年の健全育成のために御尽力いただきますとともに、県の取組みに御理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。